

東海学生陸上競技連盟幹事長になる

石原 雄次郎さん (21) 名古屋市西区

4月から、東海4県の大学生約1500人が所属する東海学生陸上競技連盟(東海学連)を仕切る。最大の行事は、5月の東海学生陸上競技対校選手権大会(東海インカシ)と11月の全日本大学駅伝対校選手権大会。連盟の学生が競技の審判や補助員などを務め、大会を支えている。

「自分1人では何もできない。みんなの協力があって初めて成功する仕事と謙虚だ。高校1年からハンマー投げを始め、現在は中京大陸上部に籍を置く。身長176センチ、体重103キロ。という恵まれた体格。東海インカシを勝ち抜き、全日本インカシへ出場するのが目標だ。」

授業が終わってから週5日、5時間余の練習で汗を流す。午後10時すぎからは、連盟の事務所で黙々と作業をこなす。帰宅は日付が変わってからが多い。これまでも役員として、箱根駅伝などの大会運営に携わってきた。「東海学連の選手が大舞台で活躍することが、自分自身の喜びでもある」と目を細める。全日本大学駅伝では過去2年間、応援団の統括を担当。今年からはスタートからゴールまで、車で移動しながら、選手らの安全に目を光らせる。「沿道の応援が選手の花になる。もっと盛り上げる工夫をしたい」と力を込める。

(松永佳甫)

「選手を勇気づける声援を。」



愛・知・人